

平成 21 年 2 月 12 日

助成研究の中間報告

助 成 番 号 第 428-4 号	助成研究名 視覚障害者を対象にした歴史的観光地における移動のバリアフリー化に関する研究	研究者・所属 新田 保次 大阪大学大学院工学 研究科
中間報告の期間	助成決定から 平成 21 年 2 月 までの研究	
1. ICF の生活機能分類を援用した視覚障害者の観光に関する意識調査 (実施事項) ・ 観光のバリアフリー及び歴史的景観に関わるバリアフリーに関する既往論文の整理を行い、調査手法、調査の視点の整理を行った。 ・ ICF の生活機能分類を援用した交通サービスの評価に関するアンケート調査事例を参考にアンケート票を作成中である。 (今後の予定) ・ アンケート票を 4 月に発送することを目標に準備中である。 2. 視覚障害者の生活機能における観光の位置づけの整理 (実施事項) ・ 視覚障害者団体の外出行事を担当する者にヒアリングを実施した。その結果、以下の課題が確認された。 ※観光地の情報が限られているため、外出の動機自体が起こらないこと。 ※交通手段が公共交通機関に限られているため、鉄道駅から当該地までの交通手段がなく（路線バスなどがなく）来訪をあきらめるケースがあること。 (今後の予定) ・ 1 で予定しているアンケート調査並びに、グループヒアリング等を実施して、調査を行う予定。 3. 歴史的観光地（倉敷美観地区）の移動に関する固有課題の抽出 (実施事項) ・ 視覚障害者団体の外出行事を担当する者にヒアリングを実施した。その結果、以下の課題が確認された。 ※弱視者に単独行動ニーズが高いこと。 ※一人行動の多い弱視者への配慮が重要であること。（特に転落への注意） (今後の予定) ・ 倉敷市美観地区において、6 月頃の数名によるプレ調査、10 月に 30 名規模で模擬体験調査を実施予定。		